

湯温泉の湧出口附近には硅華が多量に存在して居る、硅華には波長又は振幅の種々なる波痕を數多有し、且つ又木葉の印痕あるものがある、硅華の厚さは三尺内外に達し層理は山腹の傾斜に従つて並行して居る。

新湯爆裂火口内の硫質噴氣孔にはアルノーゼンが多く昇華作用によりて成生しつゝある。粗末なる芽にて屋根をふき雨を防ぎ之を採集すること別府の明礬温泉に於けると同様である。矢張之を湯の華と稱して賣り捌きて居る。

仙臺附近の温泉

福井薩男

私は職務上一年中の幾週間かを旅行に費して

居る。一週間、二週間、偶には二十日も一ヶ月も旅から旅へと日を送ることがある。

旅行は楽しいものだ。然かも汽車に飽き見物に疲れ用務に急しかつた身體を、綺麗に澄み切つたお湯にザンブと飛び込んだ心地は何ともいへないものだ。身體をお湯に沈めると自分の身體の容積丈けのお湯がザーと浴槽から勢よく流れ出るが一方からは又滾々と綺麗なお湯が流

れ込んで来る。

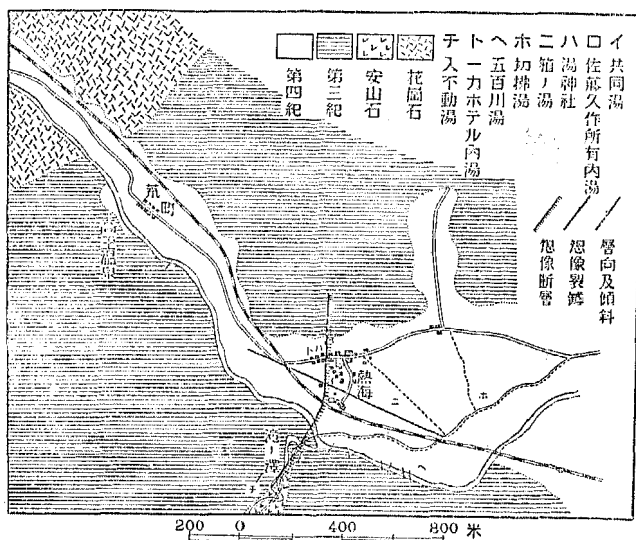
温泉も場所によつて色々變つた特色がある。山の上の温泉、平野の温泉、溪谷の温泉、海岸の温泉と皆夫れ々の趣きがある。

私は今迄東北地方の温泉を温泉から温泉へと漁つて歩いた。其の中で仙臺から日歸りで行ける二三の温泉について少し書いて見やうと思つて筆を執つた。

熱海温泉

郡山から磐越線に乗り換へて低い丘陵地の間を堀ノ内安子ヶ島と過ぎて行くと熱海の驛に着いた。此處には静かな温泉場がある。花袋氏は「温泉めぐり」の中に全く街道筋の温泉場と云ふ様な形があつたと書いてゐるが今はそんな趣は餘程少くなかつた。此處は冬は白雪皚々として全山を覆ひつくすが新緑の頃から紅葉の頃まで清快無比の温泉郷として漸やく知られて來た。

水成岩から出來てゐるのに平地は全く第四紀層のみから出來てゐる。



岩代附近熱海温泉地質略圖

花崗岩は荒町の北方の谷に僅かに露出するばかりで片狀の黒雲母花崗岩であり安山岩は瀧の澤に一小部分露出する丈で紫灰色の石基中に長方形乃至短冊狀の長石が存するものである。そして之れ以外の山地は全く第三紀層から成り立つてゐる

第三紀層は凝灰岩、

頁岩及び砂岩の累層から成り時に石炭の薄層を夾むことがある。地

質は熱海を境にして東

と西とで非常に異つておる。西の方は暗緑色の安山岩質凝灰岩からなり緻密で一見安山岩の様

附近は一體に低い丘陵地で僅かに五百川に沿つて狭長な平地が發達しており畑や田に青々と其の面を飾られてゐた。

之等の山地は花崗岩や安山岩さては第三紀の

で屢々安山岩の破片をつかんでゐる。時に浮石質のものを挟在し東北から西南に走り東南に傾斜してゐる。之に反して東の方では頁岩、凝灰岩質頁岩、砂岩及び浮石質凝灰岩の累層からなり僅かに前記の安山岩質凝灰岩を挟むことがある。走向は東北より西南に走り西北方に傾斜してゐる。斯様に東西兩部で岩質及び走向、傾斜を異するばかりでなく、温泉の重要なものはその境界に近く湧出しており其の間に斷層が存するものと想像される。

第四紀層は五百川流域の平野を構成する砂礫層からなり熱海では厚さ十尺に達するが荒町では五尺内外に過ぎない。礫は花崗岩、斑瀾岩、安山岩、頁岩及び砂岩よりなり大きなものは直徑七八寸に達する。

温泉は前記の斷層及び五百川に略々平行な二つの方向に配列し兩者の交差點附近に最も多い箱湯は停車場のすぐ前にあり嘗て浴用は使つたことがある。只今では田圃の中に湧出し附近には稻が生えぬ。汲み取つてみると僅かに硫

黄臭のあるのを感ずる。

阿部治平所有の湯は箱湯の少し東にあり第四紀層の砂礫の間から湧出してゐる。僅かに硫黄臭を帯びてゐる事は前と同様である。三尺と四尺五寸の湯槽を作り浴用として使つてゐる。

新湯(熱海館)は三百尺試錐し温泉を湧出せしめたもので深さ二尺五寸長さ及び幅各々九尺の人造石の浴槽二個を作り男湯及び女湯としてゐる。然し温度の低いため別に六尺に三尺の浴槽二個を作り加熱した夏期以外の浴用に供してゐる。

元湯(共同湯)浴場は熱海館のものと全く同一である。湯は浴槽の下底の砂利の中から處々に湧出するものであつて湧出量は六斗二升到達する。

佐藤吉榮の臺所からも温泉が湧出してゐる。直徑二尺槽に湛へて洗濯其他に使用されてゐる丈けである。

湯神社の湯は第四紀層の砂礫層から湧出するもので二尺に四尺の石造の槽に湛へられてゐる

附近の井水は全々飲料に適さない。

一力ホテルの湯は湯神社の西側に二百九十五尺試錐して湧出せしめ之れを同ホテル内に導き深さ二尺五寸幅及び長さ六尺の浴槽に湛へてゐる。然し溫度が稍低いので別に深さ三尺五寸長さ六尺幅三尺の浴槽を作り加熱して使用してゐる。

佐藤久之丞所有の内湯は男湯幅四尺九寸五分長さ五尺七寸五分、女湯幅五尺長さ五尺六寸五分で深さは共に二尺内外である。温泉は浴槽の下底に敷いた砂礫の中から湧出してゐて其の湧出量は各々一斗七升六合及び九升二合を算する。入不動の湯は黒灰色の頁岩の割れ目から湧出してゐるもので大正八年八月小野武大氏が発見したものであるが未だ利用されてゐない。

高玉温泉は明治二十三年以前から安山岩質凝灰岩中に攝氏三十二度の鑛泉が湧出してゐたものを大正二年七月二十五日から試錐し大正三年二月十七日、二百八十三尺で温泉を湧出せしめたもので當時一分間二斗二升二合の湧出量を見

た後大正五年八月地震のために温泉が閉塞したので同月から大正六年五月に亙り舊地並から六尺下方の川岸から横に掘進して原の湯道に掘り當て之れを幅六尺二寸深さ二尺の浴槽に導いて浴用に使つてゐる。

泉質は殆んど皆一樣であつて無色透明微かに鹹味を有し少しく硫黄臭を放ちリトマス試験紙で弱アルカリ性を呈する福島病院で元湯を分析した結果によると一リットル中に含有されてゐる固形分總量は〇・四五二グラムであつて

クロールカリウム	〇・一四六一
炭酸ナトリウム	〇・〇四六八
炭酸カルシウム	〇・〇二八八
硫酸ナトリウム	〇・二四一六
硫化ナトリウム	〇・〇一七六
珪酸	微量
燐酸	痕跡
酸化マンガン	痕跡

といふ様な結果を示してゐる。一力ホテルの湯を福島縣衛生課で分析しルセニユース氏結合法によつたものでは

クロールカリウム	〇・〇一六八二四
クロールナトリウム	〇・二二三〇二六
硫酸カルシウム	〇・〇一三三七六
硫酸ナトリウム	〇・〇九四一二
硫酸アルミニウム	〇・〇四六八〇〇
重炭酸ナトリウム	〇・〇三二四〇
珪酸	〇・〇一六七三〇
遊離炭酸	〇・〇二一六二
鐵	痕 跡
硫化水素	痕 跡
クロールナトリウム	二二・三〇ミリグラム
硫酸ナトリウム	二〇・九三一
硫酸カルシウム	三九・七一
硫酸マグネシウム	三・四二
硫酸カリウム	一七・二一
硫化鐵	〇・九八
アルミナ	一・八八
珪酸	四〇・八八
磷酸	痕 跡

仙臺附近の温泉

硫化水素 痕 跡
 といふ結果を得てゐる。即ち之等は皆弱塩類泉に屬すべきものである。

温泉は高玉温泉を除くと外は皆低く温泉といふより鑛泉といつた方が反つて適當であらう。

湯	32.0°
湯	30.5°
湯神社	29.7°
湯箱	24.1°
湯阿部	21.0°
湯高玉	42.5°

斯様に加熱せねば入れぬ位であるが夫れでも浴衣に着替へて湯の中に飛び込んだ時はつくづく温泉の肌障りのいゝ柔かい刺戟が何より嬉しかつた。湯槽に後頭をもたせてゐると外を流るゝ溪川の瀬の音が高く響いて如何にも靜かな温泉らしい氣を味ふことが出來た。

作 並 温 泉

仙臺から西の方に七里餘、廣瀬川の上流にある至つて原始的な温泉である。行く道は大して峻しくもないから下駄でも靴でも行けるが草鞋なら何の苦もない。

十月末——それは柿の收穫時で紅葉累々として梢を飾つてゐた頃であつた——或日の午後突然隣りの山君と作並に遂ひに行く、相談が成り立つた。

仙臺の町はずれに行つた時はもう彼れ此れ二時を過ぎてゐた。道は廣瀬川に沿つて走つてゐる。廣瀬川は大して大きな川でもないがそれかといつてそんな小さな溪流でもない。附近に山といふ程の山もなく大規模ではないが流れに沿つて景色は先づ賞すべき景色だ。総合的ではないが分析的だ。小さく色々に微細に分化した形態や様式で次から次へと展開して行くのでそこに変化があり興味が起つて来るので作並に遊びに行く面白味の大半は途中の此の溪の景色にあるといつてもいゝ位なものだ。

仙臺の町を離れた處を三瀧といつておる。そこには第三紀の層を貫いて出た安山岩が水のために破碎され磨滅されて横つておる。水がそれを巡つたり又は越えたりして流れて行く。大きな岩、小さな岩、夫れ等には長い時間の痕が刻

まれておる。それは絶えぬ水流の歴史であり又持續の證明である。其の安山岩の水の飛沫に濡れた色や日に輝いた色は邊りの蔦の紅葉や空の白雲などに照し合して一段の趣きがあつた。

暫時にして道は此溪谷から少し離れて榛木の間を縫つて行く。枝ばかりになつた榛の林の間から白堊の家や小學校歸りの子供等が見えた。

白澤で道は再び川を横切る。鋭くえぐられた兩岸の崖には黄に赤に様々に色彩られた第三紀の岩層が人が作つた様に規則正しく南に傾斜してゐた。岩の色に流れの音も北國の秋の夕暮を思はせる様に響いた。

川を渡ると五六十戸の人家があつて枯れかゝて赤くなつた杉垣の間から白い炊煙が上つてゐた。

村を離れる頃から夜の幕は沈々として下りて來た。途中で日か暮る位云ふことは始めから百も承知だつたがさて日が暮れて見ると心細い様な氣がして來た。歩一步風景盡くが臆朦となるならまだいゝが完く夕煙の中に隱滅して行くの

だ。

暫時して並木にかゝつた。老松の森々たる下道だ。例によつて瞑々朦々たる夕煙、潜々として落下する夜露は雨の様に繁かつた。

私共は矢鱈に急いだ。それでも溫泉に着いたのは八時をもう大分過ぎてゐた。宿屋が二軒ある。岩船といふ内に泊つた。

始から原始的だと云ふ位だから野趣満々として成金の毒氣など薬にしたくつてもない。溫泉に下つて行く道からして趣きがある。二町餘もあらうと思はれる長い廊下を曲り曲つて行くのだ。そして其の途中を處々に雪洞が薄暗く照してゐる。總てが創世時代に歸つて來た姿だ。

湯は川岸の岩石(白色凝灰岩)を挾つて其の中に湛へられてゐる。瀧ノ湯、鶴ノ湯及び龜ノ湯の三つがあり溫度は各々六十七度、五十一度及び五十度六分に達し、湧出量は二百七十ヘクトリートルに及ぶ。下には谷川が瀧の様に荒い瀬を作つて猛烈な水煙を立てゝゐる。

泉質はいづれも塩類泉に屬し比重は一・〇〇

〇〇四九で分析の結果は

珪酸

〇・〇九六一

硫酸

〇・四八五三一

鹽素

〇・一五八五

カルシウム

〇・二〇(一)五九

曹達

〇・二八二三

の様な値を示し鶴湯三・四四マツへ、岩松湯二・四四マツへ龜ノ湯二・三六マツへのラヂウムエマナチオンを含んでゐる。

美しい月光を浴びながら深く岩に湛へられたお湯にひたつておると潺緩たる瀬聲に和して一種の哀調を帯びた吹聲が遠くなつたり近くなつたりして聞えて來た。

飯坂溫泉

東北本線伊達驛で下車して西方に約一里、北方丘陵地の將に終きやうとする處、摺上川を挾んだ賑やかな溫泉場がある。飯坂と湯野とがそれである。

由來我邦では神代の昔から溫泉の湧き出る一帯の地方を總稱して湯野といった例は但馬の湯野に見ても明白である。が日本武尊が東征し給

ひし際疾を此の地に養はれたと傳へてゐるが或は其の時代には湯野と稱した一帶の地方の中にあつたものだらう。現に今の波來湯は其古は左波來と呼び稱呼を鮎湖と同じくするのを見ても分かる。今より約九百年前、大納言師氏の歌にも

世と共に歎かしき身は陸奥の

鮎湖のみ湯といはせてしかな

とある。然し摺上川を經界として東岸を湯野といひ西岸を飯坂と云ふ様になつたのは全く近代のことである。

摺上川は源を出羽國境に發し南流して此の地を過ぎる。其の間第三紀層からなる丘陵を浸削し斷崖絶壁東雲相對し綠樹は赤土を蔽ひ白波翠巖に横つて四時の眺めも決して悪くくない。客舎は水に臨み樓閣兩岸に聳えていかにも溫泉町らしい趣きがある。

此の附近一帯を構成してゐる地質は安山岩、

第三紀層及第四紀層に屬してゐる。

安山岩は湯野から穴原に至る途中、芋殻館に

露出してゐる。芋殻館は摺上川の東岸に屹立し松樹多く氣象萬千、快濶一望、眺望甚だ優れてゐる。昔者、北畠顯家が義軍を靈山に起したる際其の支城を築いた所である、全山を構成してゐる岩石は黝黒色の安山岩であつて黒色隱晶質の石基中に短冊形の長石及び輝石の斑晶が認められる。斑晶は三ミリメートル大なのを普通とするけれども時には一センチメートル大に及ぶものがある。此の外少量の狀粒の石英の斑晶及び二次的石英の網狀脈を見る。

第三紀層は凝灰岩、砂岩、及び頁岩の累層から出來てゐる。頁岩は灰色塊狀で當地方第三紀層中の最下底を構成するものであつて整合的に輕石質凝灰岩に蔽れてゐる。輕石質凝灰岩は厚さ小くとも二十尺あつて附近で白土として採取してゐるもので産額年三十萬圓に及び同地方の重要な産物の一つである。輕石質凝灰岩は綠色凝灰岩に蔽れてゐる。綠色凝灰岩は黃綠色の頁岩質の凝灰岩であるが時に玻璃質の部分がある。黃褐色の砂質凝灰岩に被覆されてゐる。此の砂

質凝灰岩は更に礫狀凝灰岩に蔽はれてゐる。

礫狀凝灰岩は安山岩、硅岩、輕石等の角礫を含んでおり其の大きさは二乃至三センチメートルなのが普通であるが時には二十センチメートル若しくは夫れ以上のものがある。

二尺乃至六尺の厚さを有し互層してゐる砂岩及び礫岩の層が前記の礫狀凝灰岩を蔽つてゐるが其の間の關係は整合か不整合か明らかでない。

此の第三紀層は略々東面の走向を有し北若しくは南に緩斜して赤川及び穴原にて二個の向斜軸を作つてゐる。溫泉は之等の向斜軸及び摺上川に沿つて湧出してゐる。摺上川は斷層の谷ではないが赤川と共に地裂縁に沿つて流れたものだろう。そして溫泉は之れに沿つて湧出してゐるのである。

現在知られてゐる溫泉は約五十あるが其の二十程は他から引いて來てゐるもので實際湧出してゐるものは三十四個、皆掘抜であつて一番深いものは三百尺以上に達する。

波來湯は飯坂町の東端字十綱町にある。十綱の名は往時飯坂と湯野との間に架した橋を十條の大綱で釣つてあつたのに基因するといふ。家隆卿の歌に

あづま路や十綱の橋の引かへて

いくゑの雲の下くゝるらむ

とあり又伊達宗遠の歌にも

東路の十綱の橋の苦しとも

思ひ知らでや世を渡るらむ

とあるのはこの事かと思ふ。浴客は斷崖の中腹に設けられ流れに臨み前岸の狐湯、相湯と相對し分析の結果は

硫 酸	〇・三九〇九
格魯兒	〇・一四一六
珪 硫	〇・〇六〇四
加 留 謨	〇・〇二〇三
那篇留謨	〇・二三九六
加爾叟謨	〇・一三八〇
麻爾温叟謨	痕 跡
亞爾密認謨	痕 跡
溫 度	一三一度

と云ふ結果を示してゐる。古は左波來といわれ
てゐたが今は單に波來といつてゐる。

客棧高千尺 築在水之涯

清流聲漱々 早已喚波來

の一詩に其全般を伺ふことが出来る。

鯖湖湯は宇湯澤にある。昔日本武尊の澡浴し

賜ひし處と傳ふけれど明かでない。分析の結果

は

炭 酸 〇・〇〇二五

硫 酸 〇・四一九三

カルシニウム 〇・〇四七五

ナトリニウム 〇・一八四九

燃 酸 〇・〇五〇八

クロール 〇・一四二八

硫酸鹽 一・〇二〇一

マグネシウム 〇・〇三三八

カリウム 〇・〇二三八

珪 酸 〇・〇六七三

溫 度 一二五度六

と云ふ値を示してゐる。傍に泉佛と稱する瑠璃
尊の小堂がある。

透達湯は鯖湖の北五六歩の處にある。初め字

堀切に湧出してゐたが後其の湯脈は穴を通じ
て今の湯澤に通つたので「通した湯」と云ふと傳
へる。然し又藤太といふ農夫が発見したので其
の名に因んだものだといつてゐるが其の孰れが
正しいのか分らない。 質は

格魯兒 〇・一三五九

磷 酸 〇・〇二〇〇

加爾叟謨 〇・〇三一九

加榴謨 〇・〇一二九

硫 酸 〇・三九四九

珪 酸 〇・〇五九七

麻偏濕叟謨 〇・三一一

那篤留謨 〇・二一五四

で溫度は百二十九・二度に達する。

瀧野溫泉は宇瀧野にある。近年の發見に係る

が眺望の佳きため大小の旅館が相繼で建ち並ん

だ。泉質は大同小異で

格魯兒 〇・一三五九

磷 酸 〇・〇二〇〇

加爾叟謨 〇・〇一二九

硫 酸 〇・三九四九

珪 酸 〇・〇五九七

麻個温泉

加儼

那篇

〇〇三一一

〇〇一二九

〇二二五四

温度は百三十一度だといふ。

赤川湯は西堀切り即ち赤川の東岸にある。文

化九年三月佐藤吉右衛門の發見に係る。

格魯兒

鐵

加里

硫 酸

苦 土

硫化水素

炭 酸

石 灰

珪 酸

那篇倫

多 量

痕 跡

少 量

多 量

微 量

痕 跡

少 量

少 量

少 量

著 明

を含み温度は百十六度六に達する。其の西岸に

ある赤川端湯は文化九年二月信濃の人渡邊武右

衛門の發見した故俗に信濃湯といつてゐる。泉

質は赤川湯と大差ない。

金瀧湯は赤川端陽の西にあり文化十四年八月

土地の人橋本平三郎の發見したもので温泉は赤

川湯に比して稍低く百〇七度六で

クロール

石 灰

硫 酸

苦 土

炭 酸

加里

珪 酸

ナトリウム

亞酸化鐵

多 量

少 量

多 量

痕 跡

少 量

少 量

少 量

著 明

微 量

を含んでゐる。泉を算に引いて瀑を作つてゐる

ので金瀧と稱せられてゐるのである。

金瀧名不古

斜日映飛沫

流在赤川西

忽成十丈霓

狐湯は湯野の北端にある。昔、病狐が此の温

泉に治療してゐるのを見て村民が初めて其の效

験を知つて狐湯と名づけたといふ。之れに隣つ

て切湯がある。キリギズに特效ある故をもつて

名付けたものである。湯は無色透明アルカリ性

を帯び二十二度に於ける比重は一・〇〇一三六

で一リットル中に〇・八七七グラムの固形體を

含んでゐる。分析の結果は

鹽素	多量
珪酸	少量
石灰	少量
加里	少量
曹達	著明
硫酸	多量
鐵	痕跡
苦土	痕跡
炭酸	微量

を含んでゐる。

疝氣湯は十綱橋畔にあり疝を病むもの一度浴すれば直ちに全癒するといふのを以つて此の名がある。湯は無色透明微かに黄色を帯びアルカリ性反應を呈し二十二度に於ける比重は一・〇〇八であつて一リットル中の蒸發殘渣は〇・〇九一〇として

格魯兒	多量
珪酸	少量
石灰	痕跡
獨讀	著明
篇獨讀	著明

鐵	痕跡
麻留溫斐謨	少量
炭酸	微量
礬土	少量
礬酸	痕跡

を含んでゐる。

天王寺溫泉は飯坂町の西北字北原にあり文化三年四月藍原清吉、佐藤孫兵衛二人の發見に係る。溫度は百三十五度半にして

格魯兒	少量
珪酸	少量
石灰	多量
加里	著明
硫酸	多量
礬酸	痕跡
苦土	微量
那篤倫	著明

を含んでゐる。北は摺上川を隔て、穴原溫泉一帯の連山に對し奇巖奔泉其下に散在して四時の眺に富んでゐる。又附近にある天王寺は日本四天王寺の一であつて、用明天皇の建立に係る。寺什に聖德太子の像及び太子自作の毘沙門天、

佐藤庄司の妻の守本尊の觀世音菩薩、空海自作の地藏尊である。

穴原溫泉は湯野村を北に距る凡そ十五丁ばかり茂庭村に通ずる道路に沿ひ摺上川を隔て、天王寺溫泉に對してゐる。眼前の山岳は神工鬼削となり脚下の溪流は奇巖怪石横はり激して跳るものは水晶の如く、緩にして留るものは明鏡の如く、或は雪の如く或は藍の如く歩々趣を異にして處々の景は同じくない。幽邃にして閑雅眞に仙境中の仙境である。泉質は無色透明僅かに鏽臭あり中性反應を呈し十八度に於ける比重は一・〇〇〇四である。一リットル中の因形體は〇・八五四で

硫酸カリウム	〇・三三〇三
クロールナトリウム	〇・二二七〇
硫酸カルチウム	〇・一四三九
硫酸ナトリウム	〇・八一九
珪酸	〇・〇三七八
鐵	痕跡

苦土
炭酸
アンモニア
痕跡
痕跡
痕跡

を含んでゐる。

斯く泉質は場所を變へ處を異にするに随つて可ならずしも一定でないがいづれも透明にして清澄、水底に落した針さへも分る程である。

附近に探るべき勝地も少くない。醫王寺は瑠璃光山と號して天長三年弘法大師の開基に係り其自作の藥師佛を安置してある。大島公園は舊の大島城址であり堀河の朝、信夫莊司佐藤季春の築城せるもの飯坂町近傍にては眺望第一の地である。愛宕公園にそれに對して湯野の背後にあり春は茶を席上に煮て櫻花を老松の間に賞し秋は酒を軒前に温めて紅葉を脩竹の外に玩ぶことが出来る。摺上川の夕涼み之れも溫泉にのみ恵れた清興であらう。